

1 昨年度の取り組みにおける成果と課題

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"> ・リズムアンサンブルなどの音楽づくりの意欲が高まった。 ・ボディーパーカッションやクラッピングの演奏技能が向上した。 ・鑑賞活動が充実した。 ・楽譜を読み取る力が少しずつ身に付いてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・題材を通して見通しをもって粘り強く音楽活動に取り組ませる。 ・マスクを付けながらも発声に気を付け、響きのある歌声を目指していく。 ・対話的活動を充実させ、表現や鑑賞の活動を深めていく。 ・リコーダー、鍵盤ハーモニカの基礎的、基本的な演奏技能の定着を図る。 ・ICTを活用して、表現のよさや面白さの共有を図っていく。

2 課題を踏まえて次の取り組みを行います

1 年 ・ 2 年	3 年 ・ 4 年	5 年 ・ 6 年
<ul style="list-style-type: none"> ・体の動きを生かし、リズム感覚を重視した学習を展開する。 ・クラッピングや動作をつけながらリズム譜や階名唱に慣れさせる。 ・息の使い方やタンギングに慣れさせる。 ・聴き取ったこと、感じ取ったことが深まるようなワークシートを工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・響きのある歌声や基本的な奏法が身に付くような教材開発と指導の充実を図る。 ・聴き取ったこと、感じたことが深まるようなワークシートを工夫したり、対話的活動を取り入れたりする。 ・ICTを活用した音楽づくりに取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想にふさわしい響きのある歌声で表情豊かに表現できるように指導の充実を図る。 ・ICTを活用し表現のよさや面白さについて交流し、表現を深めたり、考えを広げたりしていく。 ・器楽の学習において、実態に応じた教材選択を行い、反復練習を重ね基礎基本を定着させていく。

1 昨年度の取り組みにおける成果と課題

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"> ・造形的な視点を意識して取り組むことができた。 ・友達によさや個性などに気付き、認め合うことができた。 ・材料や用具を安全に使って活動することができた。 ・用具や技法の学習を通して、表現活動への興味・関心が高まった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発想や表現に自信をもち、作品に対して愛着がもてるようにする。 ・形や色などの造形的な視点についての理解を深める。 ・材料や用具を活用して、創意工夫しながら作品をつくらうとする姿勢を育てる。 ・完成までの見通しをもたせて、計画的な作品づくりができるようにする。

2 課題を踏まえて次の取り組みを行います

1 年 ・ 2 年	3 年 ・ 4 年	5 年 ・ 6 年
<ul style="list-style-type: none"> ・児童にとって身近な素材・題材を取り入れ、学習意欲を高める。 ・友達同士で作品を見合う時間を十分に設け、いろいろな物の色や形、工夫している点に興味をもたせる。 ・カッターやはさみ、のり、絵の具など用具の使用に慣れさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活が楽しく豊かになるものを創造する活動を通して、つくりだす喜びを味わい、意欲の向上を図る。 ・絵の具、のこぎり、金づちなどの用具の使い方の指導を徹底し、技能・表現力の向上を図る。 ・ICTを活用した鑑賞活動に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用し、情報収集や意見交換をする場を設定し、発想や構想をしたり、見方や感じ方を深めたりしていく。 ・造形的な視点を基に、自分のイメージをもたせ、表し方を工夫できるように指導の充実を図る。 ・活動のめあてや学習の過程が確認できるように、計画的に進められるワークシートを工夫する。

1 昨年度の取り組みにおける成果と課題

成 果		課 題	
5 年	6 年	5 年	6 年
<ul style="list-style-type: none"> 裁縫道具の基礎的な使い方を授業の中で繰り返し取り組んだ結果、なみ縫いなど基本的な手縫いの技能を身に付けることができた。 道具の扱い方に気を付け、大きな怪我なく調理や裁縫に取り組むことができた。 動画やタブレット端末の活用により、より具体的に調理や裁縫の仕方などを理解することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 1回限りの学習ではなく、複数の題材において繰り返し取り組むことによって知識や技能の定着を図ることができた。 社会や理科など、他教科の授業で学習した内容と関連付けて考えようとする姿が見られた。 動画やタブレット端末の活用により、より具体的に調理の仕方などを理解することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 調理や裁縫などの生活経験の乏しさから、単元の実習の際に自信がもてず積極的に取り組めない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学んだことを生活に生かす機会が少ないため、技能・知識が定着しない。 作業について個人差が大きい。

2 課題を踏まえて次の取り組みを行います

5 年	6 年
<ul style="list-style-type: none"> 基礎的な調理器具の使い方や裁縫道具の扱い方について、個別に指導できるようにする。 技能面では、スモールステップで取り組ませることで、現時点での自分自身の課題を明確にし、解決に向けて取り組ませる。 毎時間のめあてを確認し、児童がめあてを意識して取り組めるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 家族の一員として、自分のできる家庭の仕事を家庭科の課題として取り組むことから始めさせ、継続的に実践できるようにする。 掃除や洗濯、買い物など食に関すること以外についても、家庭で取り組みやすい課題を与えていく。

1 昨年度の取り組みにおける成果と課題

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"> ・今年度から外国語専科が配置された。ALT と T・T で授業を実施している。二人体制となり、学習活動の幅が広がり、児童の意欲が高まった。 ・低学年は歌や色塗りを通して外国語に親しんだり、児童の実態に応じてALTと楽しく発話をしたりすることができた。 ・中学年は体全体を使って色や体の部位などについて外国語の発音や表現を楽しみながら慣れ親しむことができた。 ・高学年は既習の単語や表現を用いて、自分のことや身の回りのことを紹介する活動を積み重ねることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学年は、返答の仕方が分からないなど、コミュニケーション活動への取り組みに二極化が見られた。そのため、簡単な語句や表現の習得に課題がある。 ・高学年は、表現活動へ取り組む意識に二極化が見られた。そのため、児童一人一人が思いをもって活動することが課題である。

2 課題を踏まえて次の取り組みを行います

1 年 ・ 2 年	3 年 ・ 4 年	5 年 ・ 6 年
<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末を活用するなど、学習に楽しく取り組める教材開発をする。 ・2年生は次の学年に向けて、単語だけでなく、簡単な表現を楽しく発話できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高学年を見据えて、返答例を示すことにより、双方向のコミュニケーションを促していく。 ・簡単な語句や表現の練習をした後に、児童がすすんで友達や先生とコミュニケーションをとれるよう、発話の必然性がある場面を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度、初めて6年生の学習効果測定を実施した。目標値と同程度、又は上回っていると考えられる児童の割合が8割を超えた。買い物や道案内の場面等の身近な状況を推測したり、身の回りのことについて簡単な語句や表現を用いて文章を書いたりする活動を意識して取り入れる。 ・高学年が表現活動を行う際は、目的意識をもって身の回りのことを紹介できるよう、動機を明確にさせ、意欲を高められるようにする。